

平成 23 年度 中間評価（案）一覧表

【ソフト分野】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H23 委託額 (千円)	中間評価 (案)
22-1	3		研究名	都市高速道路における突発事象時の最適交通運用についての研究開発	東京工業大学 教授 朝倉 康夫	15,939	A
			概要	都市高速道路において、事前に予測が困難な事故等の障害（突発事象）の発生を速やかに検出し、その事象によって生じる旅行時間の変化を予測して利用者に提供するための技術を開発するとともに、突発事象の影響を最小化するために、情報提供下での利用者行動分析を踏まえた交通運用の最適化方策について研究する。			
22-2	6		研究名	混合交通流の自動解析に基づく交通安全性・円滑性評価手法および交通制御・道路運用手法の構築	京都大学 大学院准教授 須崎 純一	4,800	C
			概要	本研究では、画像処理技術を活用して交通流の自動解析を実現し、それに基づいて交通流特性をモデル化し、最終的に交通安全性・円滑性評価手法の構築、交通シミュレータの開発、および交通制御・道路運用手法の策定を目的とする。			

【ハード分野】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H23 委託額 (千円)	中間評価 (案)
22-3	8		研究名	非破壊検査のための非接触音響探査法についての研究開発	桐蔭横浜大学 教授 杉本 恒美	10,900	B
			概要	強い音響振動を発生する長距離音響発生装置と高感度のスキヤニング振動計を組み合わせた非接触音響探査法により、トンネル覆工や橋梁、その他構造物のコンクリート劣化部の非接触・非破壊検査システムを開発する。			
22-4	8		研究名	新たな超高周波電磁波を用いた道路構造物欠陥診断の研究開発	東北大学 大学院教授 小山 裕	24,300	C
			概要	道路建造物内部の欠陥を非破壊で検出する新規な手法を開発する事が目的である。そのため、これまで殆ど使われなかった透過性が高く人体に安全な新しい光である独自の超高周波電磁波（テラヘルツ波）を用いて、現場で特別な養生無く使える安心・安全で高精度な構造物欠陥検出方法の実用化を目指す。			

中間評価：研究継続の妥当性評価

A：現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B：現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C：研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D：中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。